

# 大正の面影とどめる折尾駅

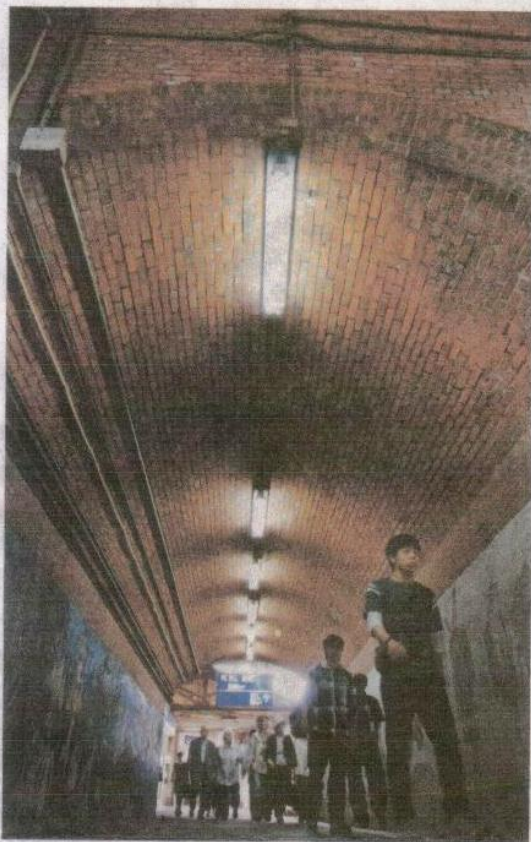
日本初の立体交差駅として知られ、大正時代の面影を色濃く残す八幡西区のJ  
R折尾駅。高架化事業に伴って解体されることが決まっている。地元では「折尾  
のシンボルを残したい」と現状での保存を求める声も根強く残っている。

(写真・大野博昭、文・後藤敬人)

## 保存求める声根強く



●駅舎2階の鹿児島線のホーム  
▲●構内のレンガ造りの通路



折尾駅は、筑豊からの石炭の輸送路だった堀川のそばにあり、1895年(明治28年)築の駅舎が1916年(大正5年)に改築され、今に至っている。木造2階建てで、延べ床面積約590平方メートル。1階

は筑豊線、2階は鹿児島線のホームがある。木製の円柱や待合用の円形ベンチは鈍く光り、重厚で温かい風合いを醸し出している。市は2009年、住民との協議を経て円柱などを再利用した複製施設を周辺に

建てる構想をまとめた。しかし、用地買収が難航し、解体時期は決まっていな  
い。地元では「新駅ができるまでの仮改札口に駅舎を活用してほしい」と署名活動を行っている団体もある。



●駅舎の保存を求める声がかかるJR折尾駅。木製の円柱と円形ベンチ(奥)